

「少年非行に関する世論調査」の概要

平成27年9月
内閣府政府広報室

調査対象	全国20歳以上の日本国籍を有する者 3,000人 有効回収数 1,773人（回収率59.1%）
調査時期	平成27年7月23日～8月2日（調査員による個別面接聴取）
調査目的	少年非行に関する国民の意識を調査し、今後の施策の参考とする。
調査項目	少年非行に関する意識 少年非行の問題点 少年による不良行為の現状 少年非行の防止と立ち直りの支援 警察などの行政機関に対する要望等
調査実績	「少年非行に関する世論調査」（平成22年11月調査） 「少年非行等に関する世論調査」（平成17年1月調査） 「少年非行問題等に関する世論調査」（平成13年11月調査） 「青少年の非行等問題行動に関する世論調査」（平成10年4月調査） 「少年非行問題に関する世論調査」 （平成7年6月、昭和63年7月、昭和58年7月調査）

（平成18年度の調査から、調査対象者に調査主体が「内閣府」であることを提示した上で実施。）

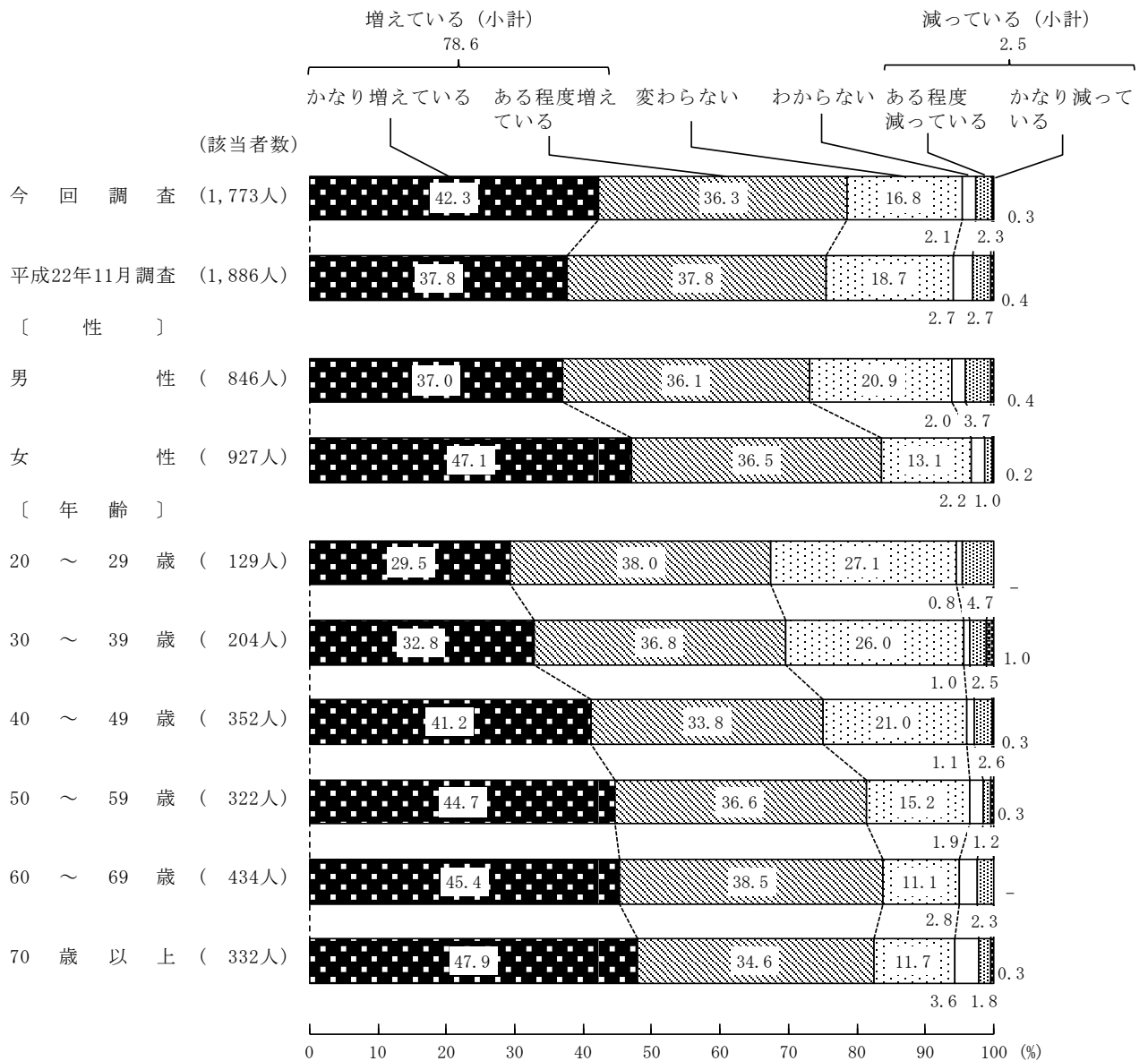
※ 本資料では、過去の調査結果との比較において、統計学的に有意差（信頼度95%）が認められる回答については、「（増）」または「（減）」と記載している。

1 少年非行に関する意識

(1) 少年非行は増加しているか

問1 あなたの実感として、おおむね5年前と比べて、少年による重大な事件が増えていると思いますか、減っていると思いますか。この中から1つだけお答えください。

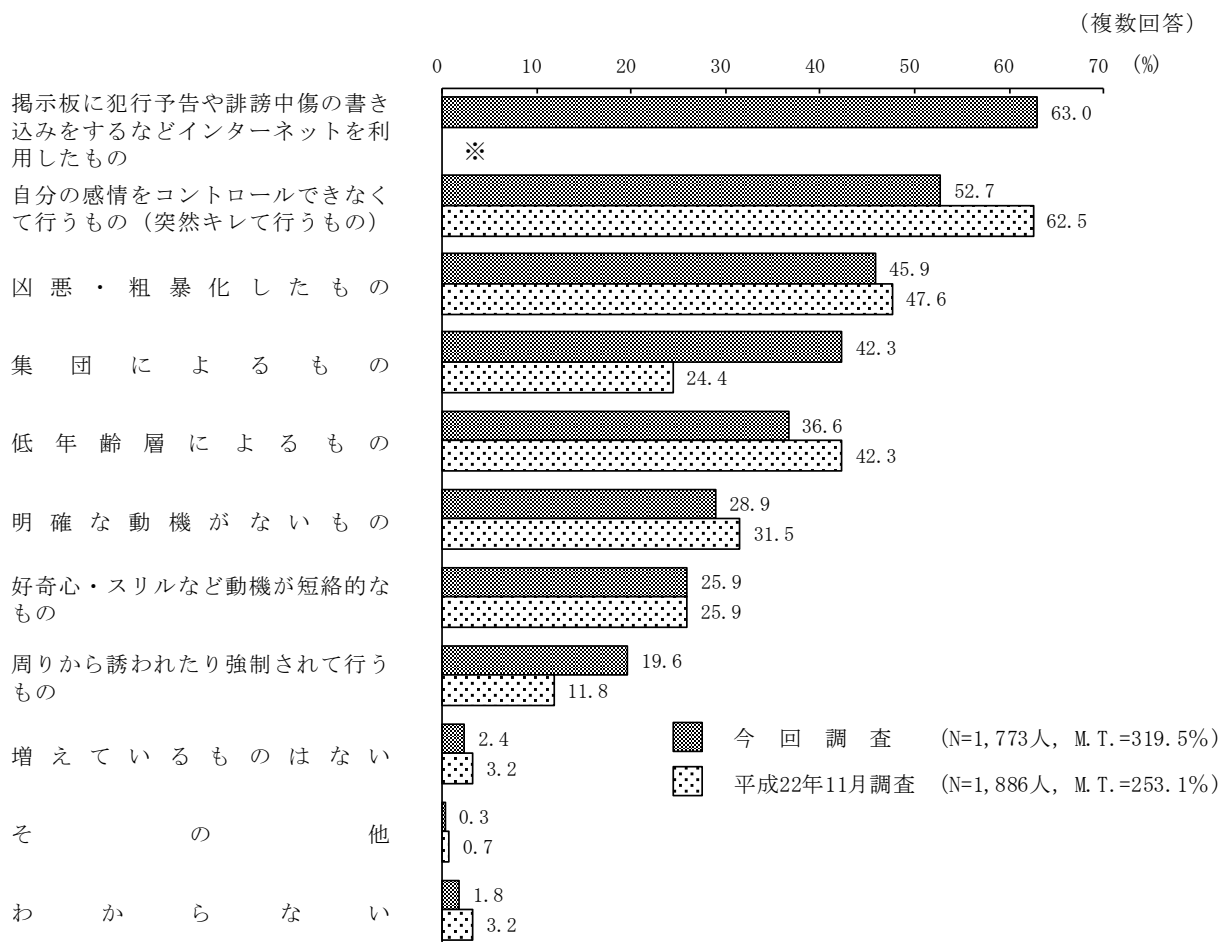
	平成22年11月	平成27年7月
・ 増えている (小計)	75.6%	→ 78.6% (増)
・ かなり増えている	37.8%	→ 42.3% (増)
・ ある程度増えている	37.8%	→ 36.3%
・ 変わらない	18.7%	→ 16.8%
・ 減っている (小計)	3.0%	→ 2.5%
・ ある程度減っている	2.7%	→ 2.3%
・ かなり減っている	0.4%	→ 0.3%



(2) 増加している少年非行

問2 あなたは、おおむね5年前と比べて、少年非行はどのようなものが増えていると思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

	(上位4項目)	
	平成22年11月	平成27年7月
・ 掲示板に犯行予告や誹謗中傷の書き込みをするなどインターネットを利用したもの	*	63.0%
・ 自分の感情をコントロールできなくて行うもの(突然キレて行うもの)	62.5%	52.7% (減)
・ 凶悪・粗暴化したもの	47.6%	45.9%
・ 集団によるもの	24.4%	42.3% (増)



※調査をしていない項目

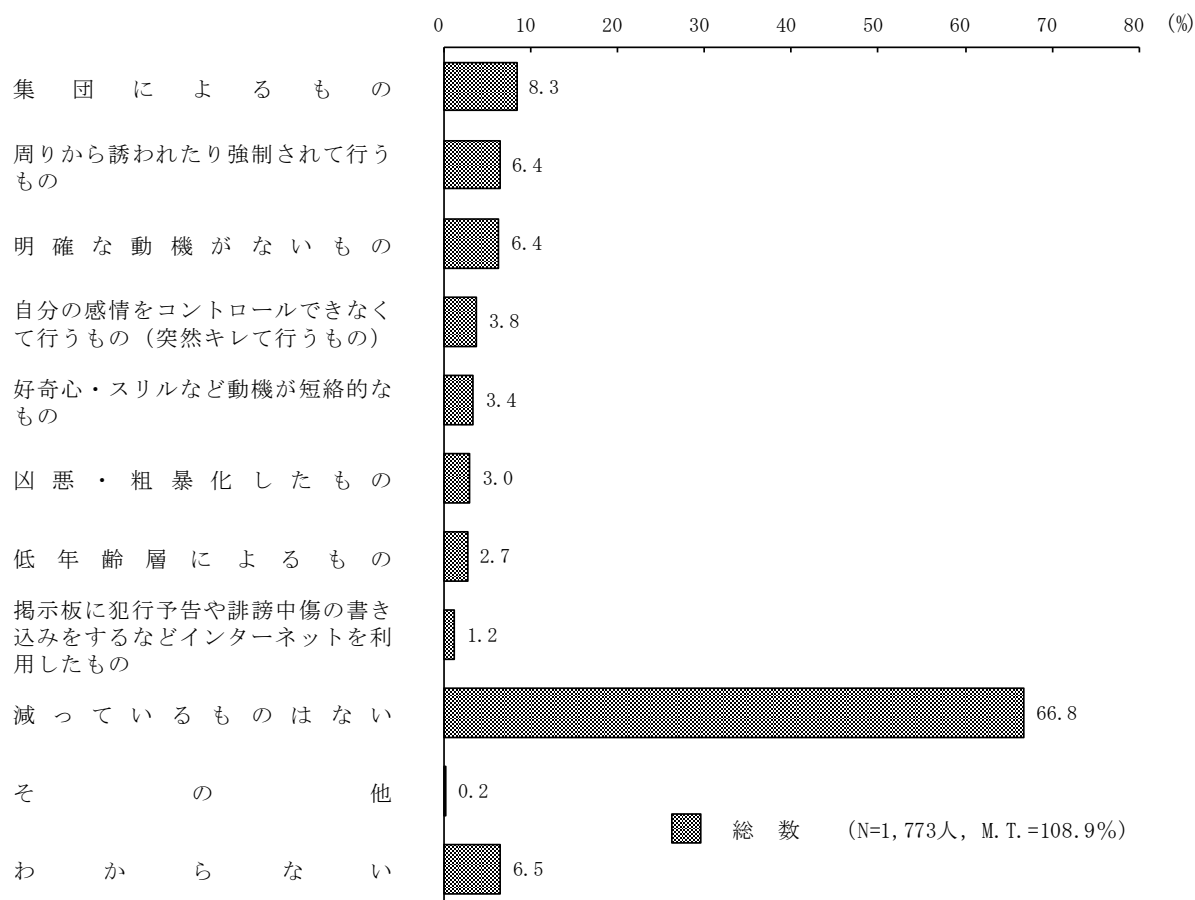
(3) 減少している少年非行

問3 あなたは、おおむね5年前と比べて、少年非行はどのようなものが減っていると思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位8項目)
平成27年7月

・集団によるもの	8.3%
・周りから誘われたり強制されて行うもの	6.4%
・明確な動機がないもの	6.4%
・自分の感情をコントロールできなくて行うもの(突然キレて行うもの)	3.8%
・好奇心・スリルなど動機が短絡的なもの	3.4%
・凶悪・粗暴化したもの	3.0%
・低年齢層によるもの	2.7%
・掲示板に犯行予告や誹謗中傷の書き込みをするなどインターネットを利用したもの	1.2%
・減っているものはない	66.8%

(複数回答)

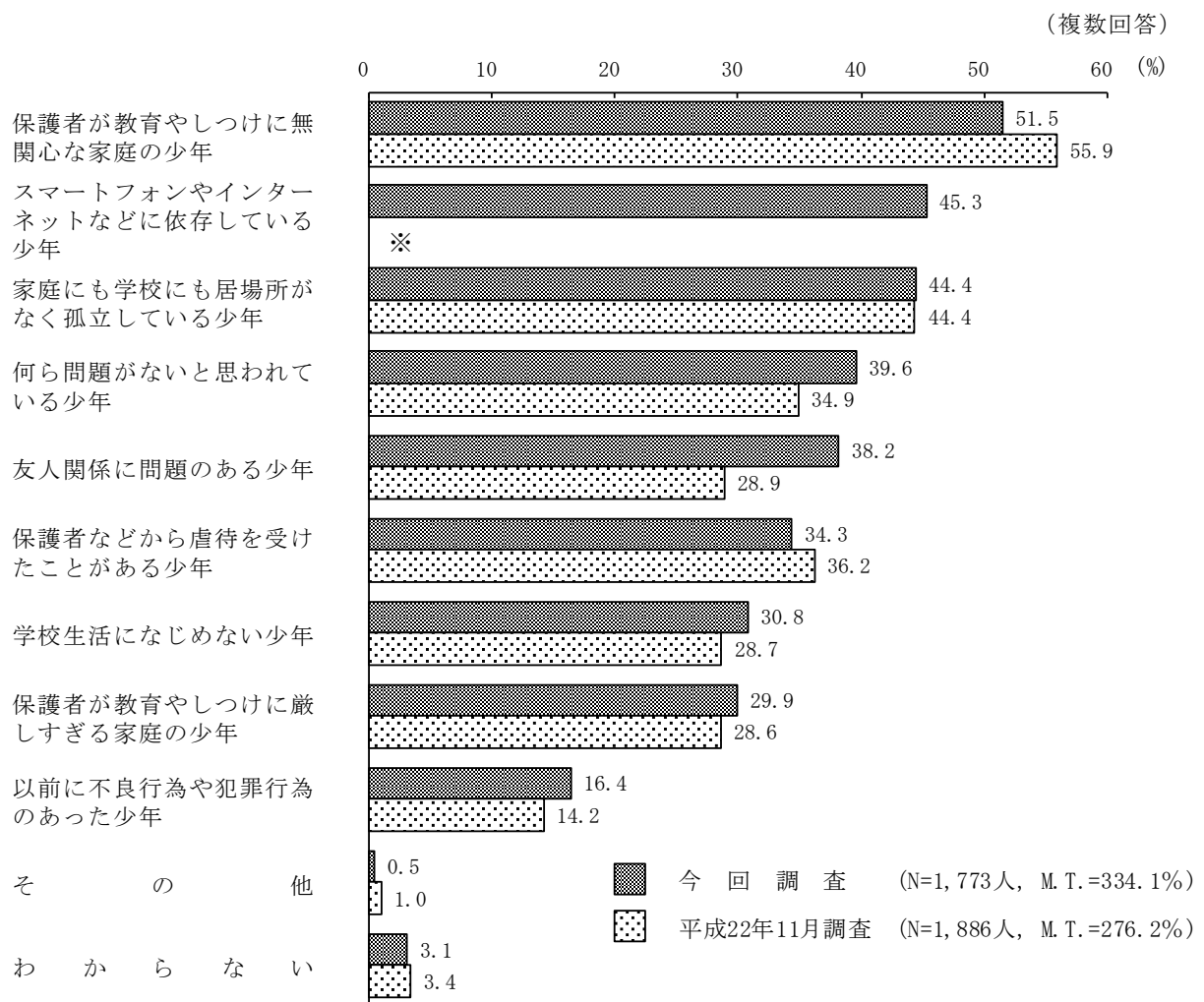


(4) 非行を起こす少年の経緯

問4 最近の少年非行は、どのような少年が起こしていると思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位3項目)

	平成22年11月	平成27年7月
・保護者が教育やしつけに無関心な家庭の少年	55.9%	51.5% (減)
・スマートフォンやインターネットなどに依存している少年	*	45.3%
・家庭にも学校にも居場所がなく孤立している少年	44.4%	44.4%



※調査をしていない項目

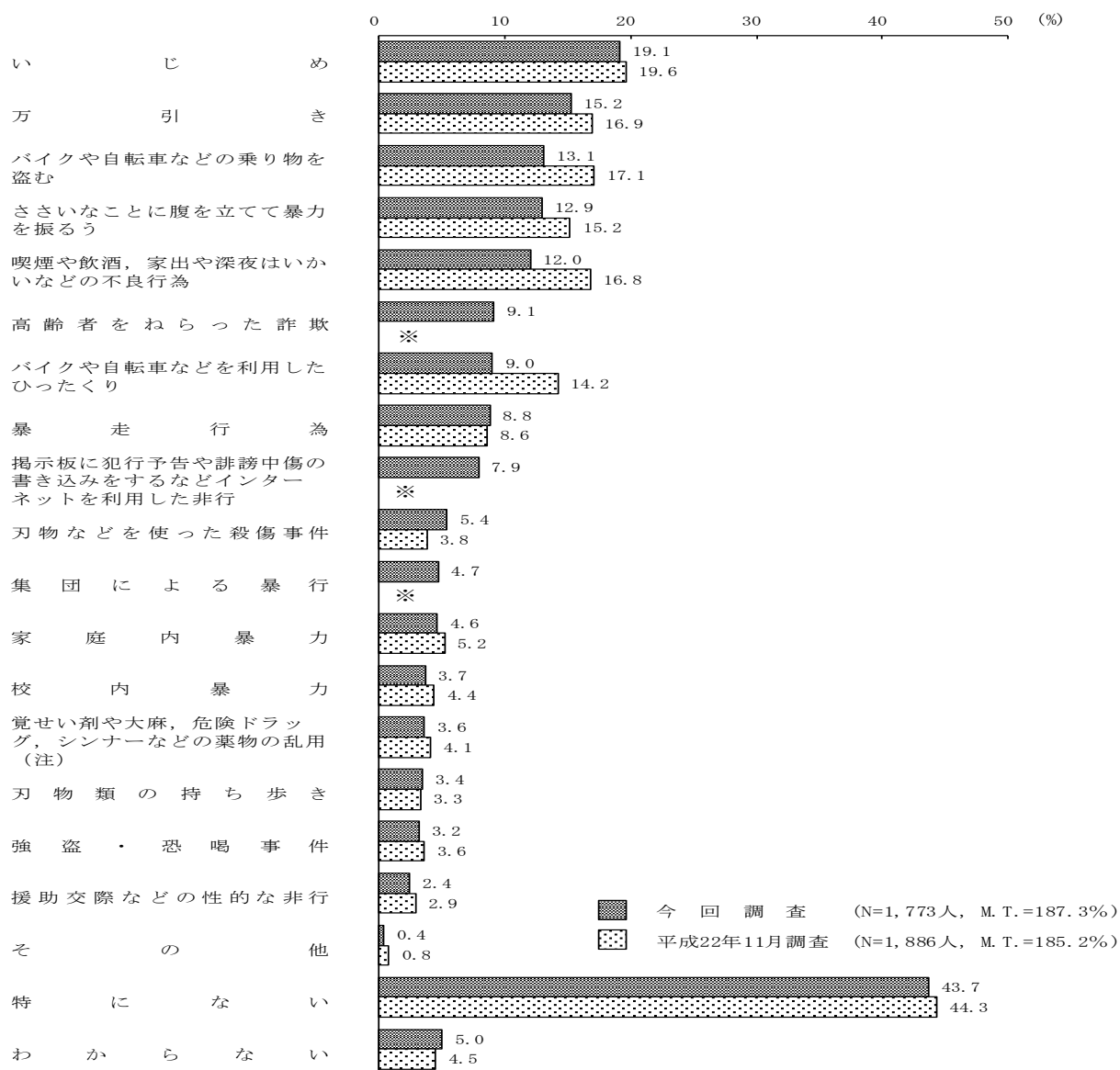
(5) 実際に身の回りで起こり問題となっている少年非行

問5(1) 実際にあなたの周りで起こり問題となっていることを、この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位5項目)

	平成22年11月	平成27年7月
・いじめ	19.6%	19.1%
・万引き	16.9%	15.2%
・バイクや自転車などの乗り物を盗む	17.1%	13.1% (減)
・ささいなことに腹を立てて暴力を振るう	15.2%	12.9% (減)
・喫煙や飲酒、家出や深夜はいかいなどの不良行為	16.8%	12.0% (減)
・特にない	44.3%	43.7%

(複数回答)



(注) 平成22年11月調査では、「覚せい剤や大麻、合成麻薬、シンナーなどの薬物の乱用」となっている。

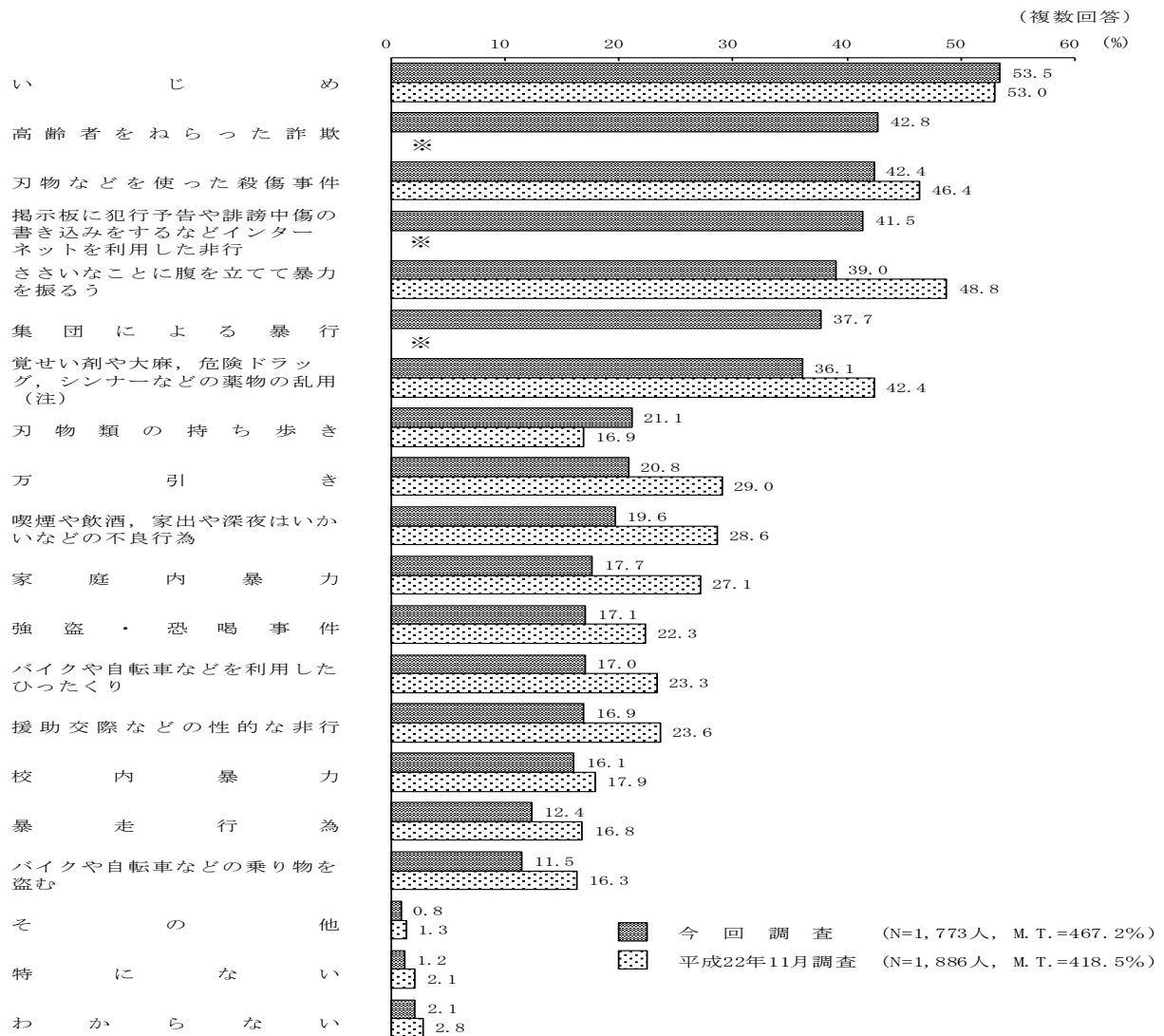
※調査をしていない項目

(6) 社会的にみて問題だと思う少年非行

問5(2) 広く社会的にみて問題だと思うことを、この中からいくつでもあげてください。
(複数回答)

(上位7項目)

	平成22年11月	平成27年7月
・いじめ	53.0%	→ 53.5%
・高齢者をねらった詐欺	*	→ 42.8%
・刃物などを使った殺傷事件	46.4%	→ 42.4% (減)
・掲示板に犯行予告や誹謗中傷の書き込みをするなど インターネットを利用した非行	*	→ 41.5%
・ささいなことに腹を立てて暴力を振るう	48.8%	→ 39.0% (減)
・集団による暴行	*	→ 37.7%
・覚せい剤や大麻、危険ドラッグ、シンナーなどの 薬物の乱用	42.4%	→ 36.1% (減)



(注) 平成22年11月調査では、「覚せい剤や大麻、合成麻薬、シンナーなどの薬物の乱用」となっている。

※調査をしていない項目

2 少年非行の問題点
 (1) 少年自身の問題点

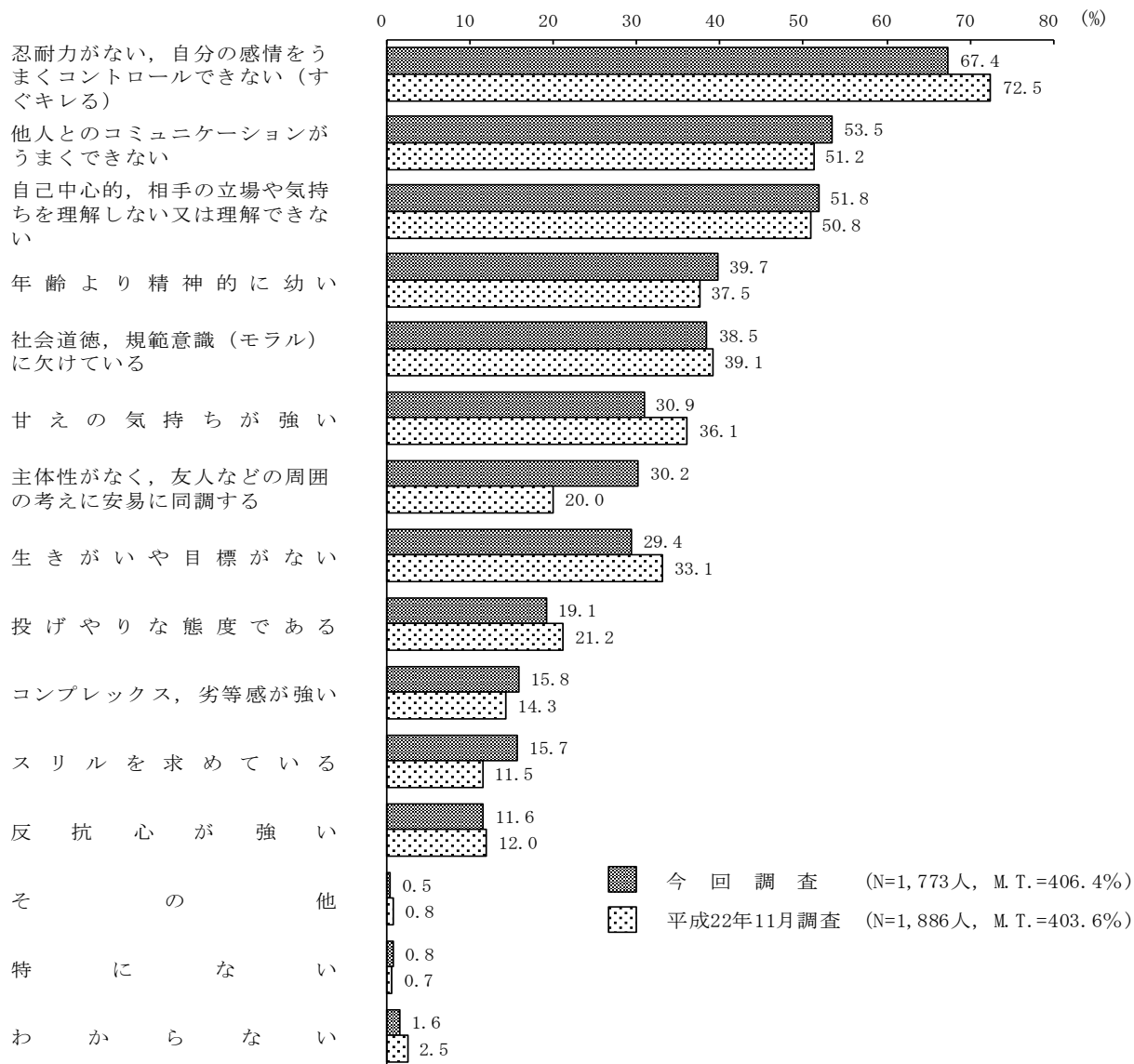
問6 あなたは、最近の少年の性格や資質について、何か問題だと思う点がありますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位5項目)

平成22年11月 平成27年7月

・ 忍耐力がない、自分の感情をうまくコントロールできない(すぐキレル)	72.5%	→	67.4% (減)
・ 他人とのコミュニケーションがうまくできない	51.2%	→	53.5%
・ 自己中心的、相手の立場や気持ちを理解しない又は理解できない	50.8%	→	51.8%
・ 年齢より精神的に幼い	37.5%	→	39.7%
・ 社会道徳、規範意識(モラル)に欠けている	39.1%	→	38.5%

(複数回答)



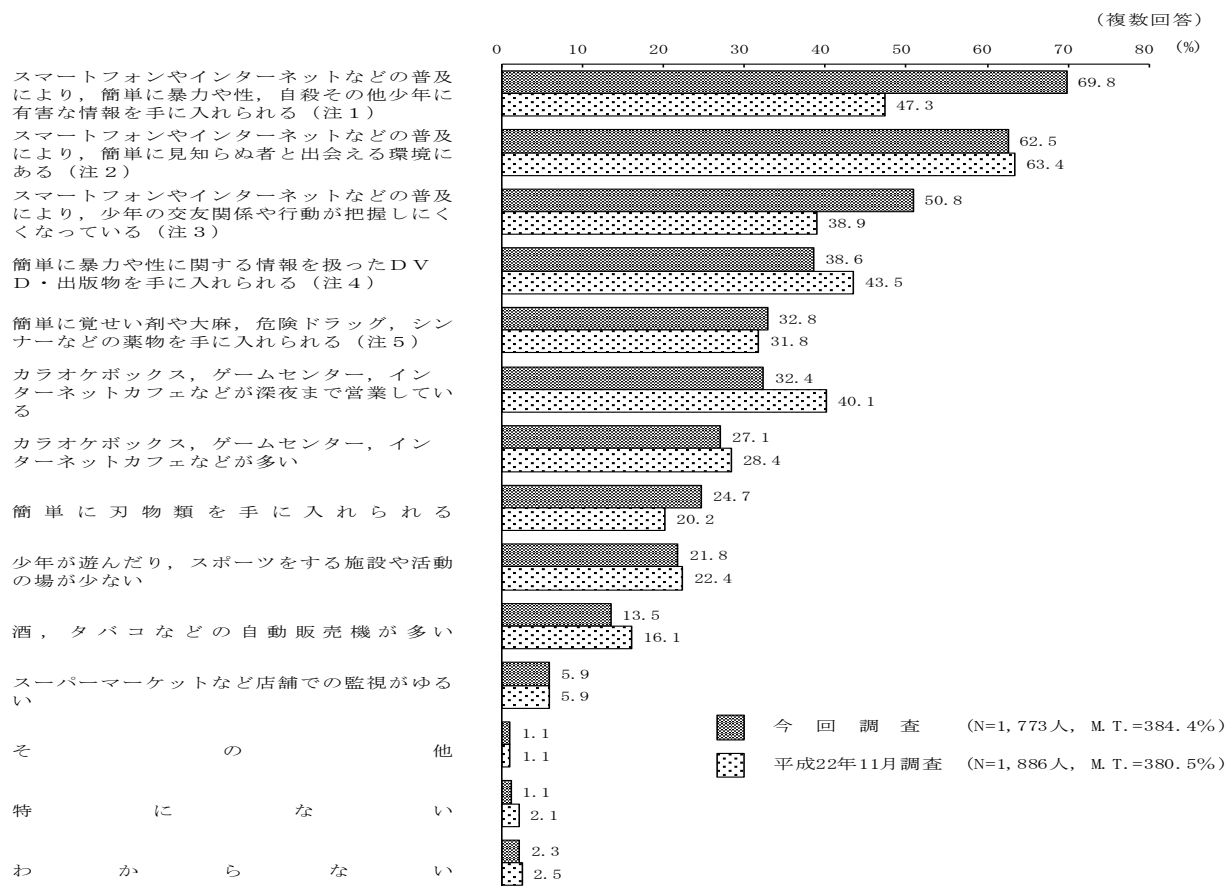
(2) 社会環境の問題点

問7 あなたは、少年非行について、どのような社会環境が問題だと思いますか。この中からいくつかもあげてください。(複数回答)

(上位4項目)

平成22年11月 平成27年7月

・スマートフォンやインターネットなどの普及により、簡単に暴力や性、自殺その他少年に有害な情報を手に入れられる	47.3%	→	69.8% (増)
・スマートフォンやインターネットなどの普及により、簡単に見知らぬ者と出会える環境にある	63.4%	→	62.5%
・スマートフォンやインターネットなどの普及により、少年の交友関係や行動が把握しにくくなっている	38.9%	→	50.8% (増)
・簡単に暴力や性に関する情報を扱ったDVD・出版物を手に入れられる	43.5%	→	38.6% (減)



(注) 平成22年11月調査では、「テレホンクラブ・ツーショットダイヤルなどが氾濫している」(16.8%)という選択肢がある。

(注1) 平成22年11月調査では、「携帯電話やインターネットの普及により、簡単に暴力や性、自殺に関する情報を手に入れられる」となっている。

(注2) 平成22年11月調査では、「携帯電話やインターネットの普及により、簡単に見知らぬ者と出会える環境にある」となっている。

(注3) 平成22年11月調査では、「携帯電話やインターネットの普及により、少年の交友関係や行動が把握しにくくなっている」となっている。

(注4) 平成22年11月調査では、「簡単に暴力や性に関する情報を扱ったビデオ・出版物を手に入れられる」となっている。

(注5) 平成22年11月調査では、「簡単に覚せい剤や大麻、合成麻薬、シンナーなどの薬物を手に入れられる」となっている。

(3) 社会風潮の問題点

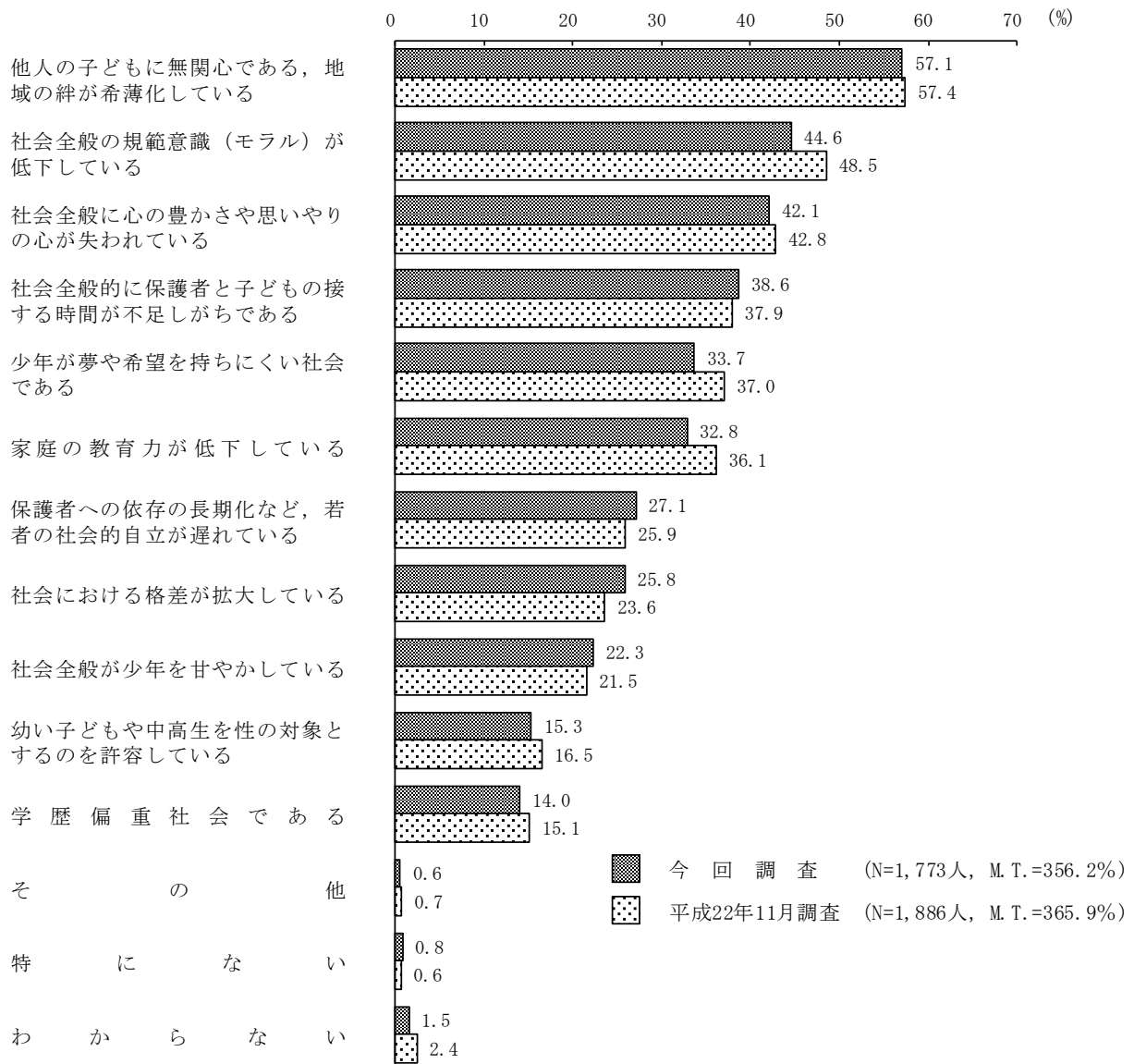
問8 あなたは、少年非行について、どのような社会風潮が問題だと思いますか。この中からいくつかもあげてください。(複数回答)

(上位4項目)

平成22年11月 平成27年7月

・他人の子どもに無関心である、地域の絆が希薄化している	57.4%	→	57.1%
・社会全般の規範意識（モラル）が低下している	48.5%	→	44.6%（減）
・社会全般に心の豊かさや思いやりの心が失われている	42.8%	→	42.1%
・社会全般的に保護者と子どもの接する時間が不足しがちである	37.9%	→	38.6%

(複数回答)



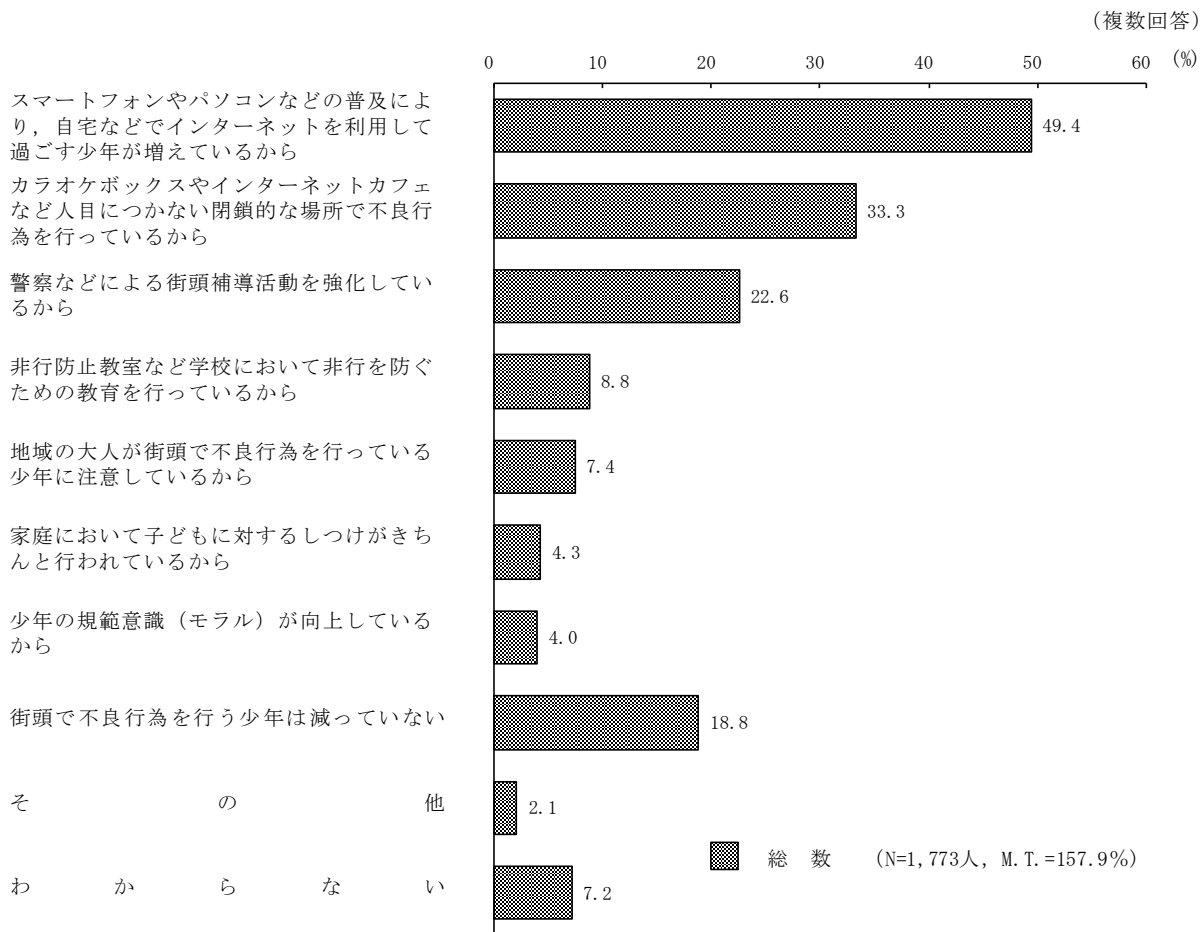
3 少年による不良行為の現状

(1) 街頭で補導される少年の数が減っている理由

問9 喫煙や深夜はいかいなどの不良行為により街頭で警察官に補導される少年の数は減少傾向にありますが、あなたは、街頭で補導される少年の数が減っている理由は何だと思えますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位2項目)
平成27年7月

- ・スマートフォンやパソコンなどの普及により、自宅などでインターネットを利用して過ごす少年が増えているから 49.4%
- ・カラオケボックスやインターネットカフェなど人目につかない閉鎖的な場所で不良行為を行っているから 33.3%
- ・街頭で不良行為を行う少年は減っていない 18.8%



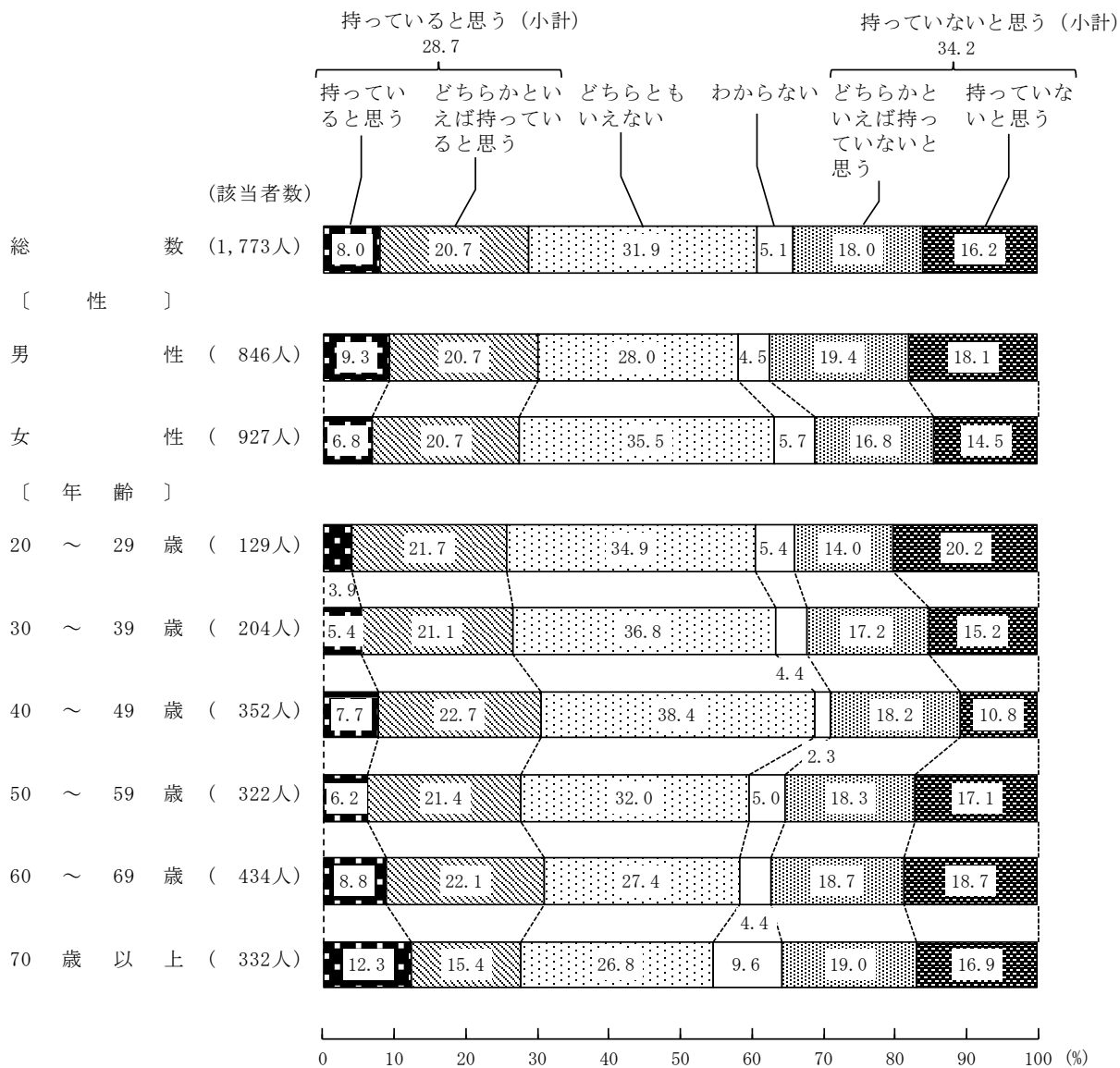
4 少年非行の防止と立ち直りの支援

(1) 少年非行防止のための大人の少年への関わり

問10 あなたの住む地域では、少年非行の防止のために大人が少年との関わりを持っていると思いますか。この中から1つだけお答えください。

平成 27 年 7 月

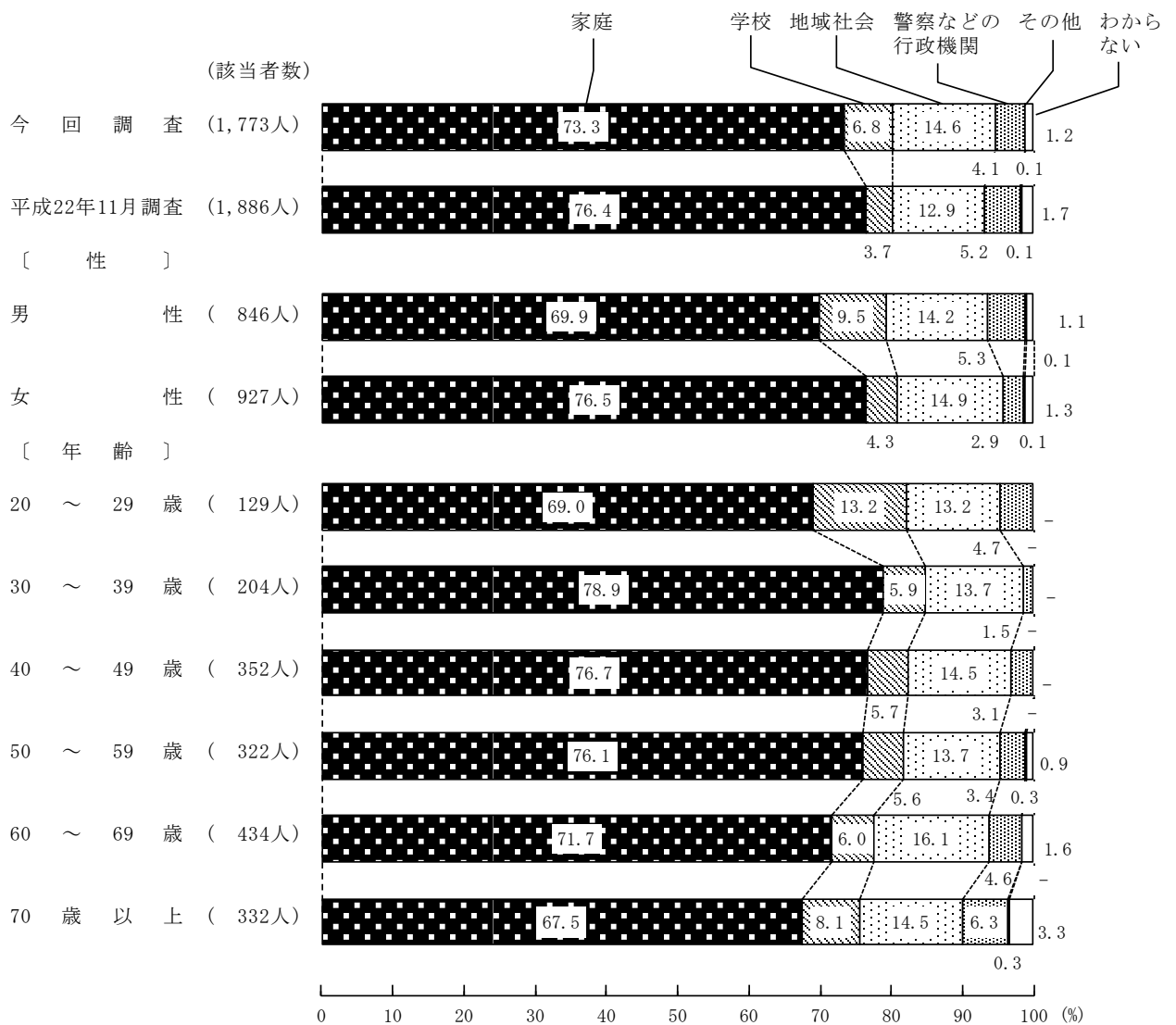
- ・持っていると思う (小計) 28.7%
- ・持っていると思う 8.0%
- ・どちらかといえば持っていると思う 20.7%
- ・どちらともいえない 31.9%
- ・持っていないと思う (小計) 34.2%
- ・どちらかといえば持っていないと思う 18.0%
- ・持っていないと思う 16.2%



(2) 少年非行防止の役割

問 1 1 少年非行を防止するために、特に大きな役割を果たすのは、次のうちのどれだと思いますか。この中から1つだけお答えください。

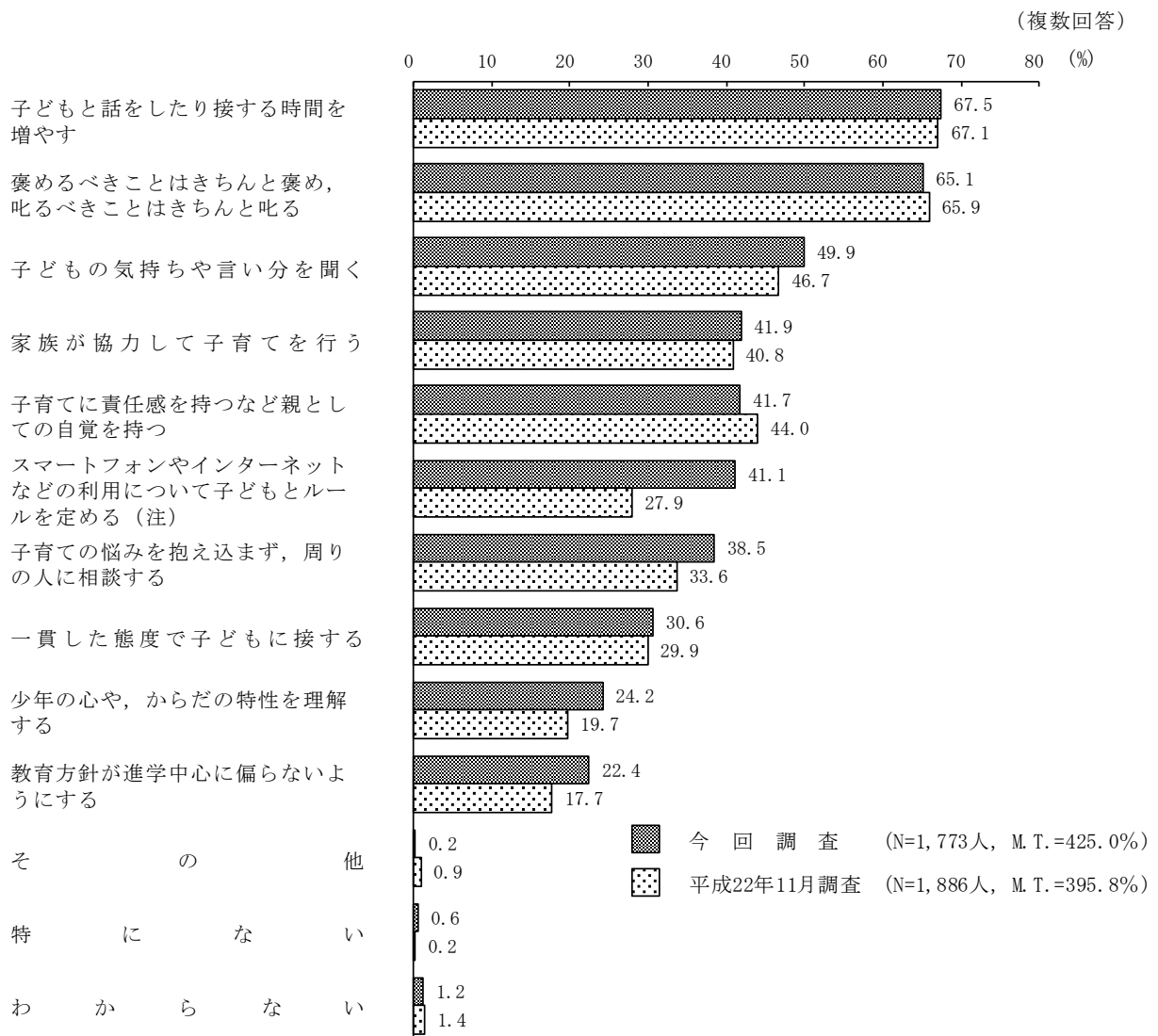
	平成 22 年 11 月	→	平成 27 年 7 月
・家庭	76.4%		73.3% (減)
・学校	3.7%		6.8% (増)
・地域社会	12.9%		14.6%
・警察などの行政機関	5.2%		4.1%



(3) 家庭での対応

問12 少年を非行に走らせないようにするために、それぞれの家庭で、保護者はどのように対応すればよいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

	(上位3項目)	
	平成22年11月	平成27年7月
・子どもと話をしたり接する時間を増やす	67.1%	→ 67.5%
・褒めるべきことはきちんと褒め、叱るべきことはきちんと叱る	65.9%	→ 65.1%
・子どもの気持ちや言い分を聞く	46.7%	→ 49.9%



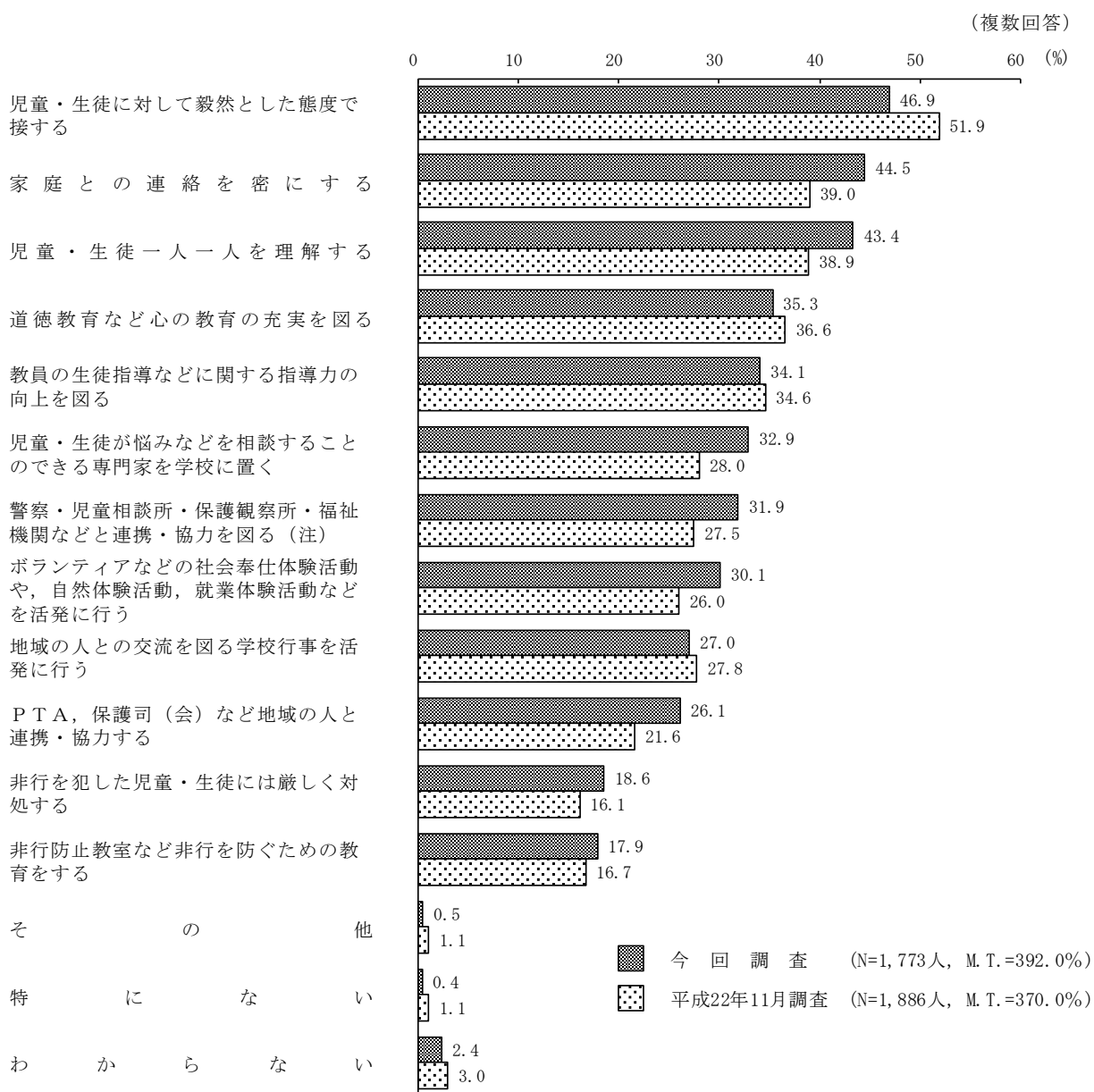
(注) 平成22年11月調査では、「インターネットや携帯電話の利用について子どもとルールを定める」となっている。

(4) 学校の対応

問13 児童・生徒を非行に走らせないようにするために、学校ではどのように対応するのがよいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位3項目)

	平成22年11月	平成27年7月
・児童・生徒に対して毅然とした態度で接する	51.9%	46.9% (減)
・家庭との連絡を密にする	39.0%	44.5% (増)
・児童・生徒一人一人を理解する	38.9%	43.4% (増)



(注) 平成22年11月調査では、「警察・児童相談所・福祉機関などと連携・協力を図る」となっている。

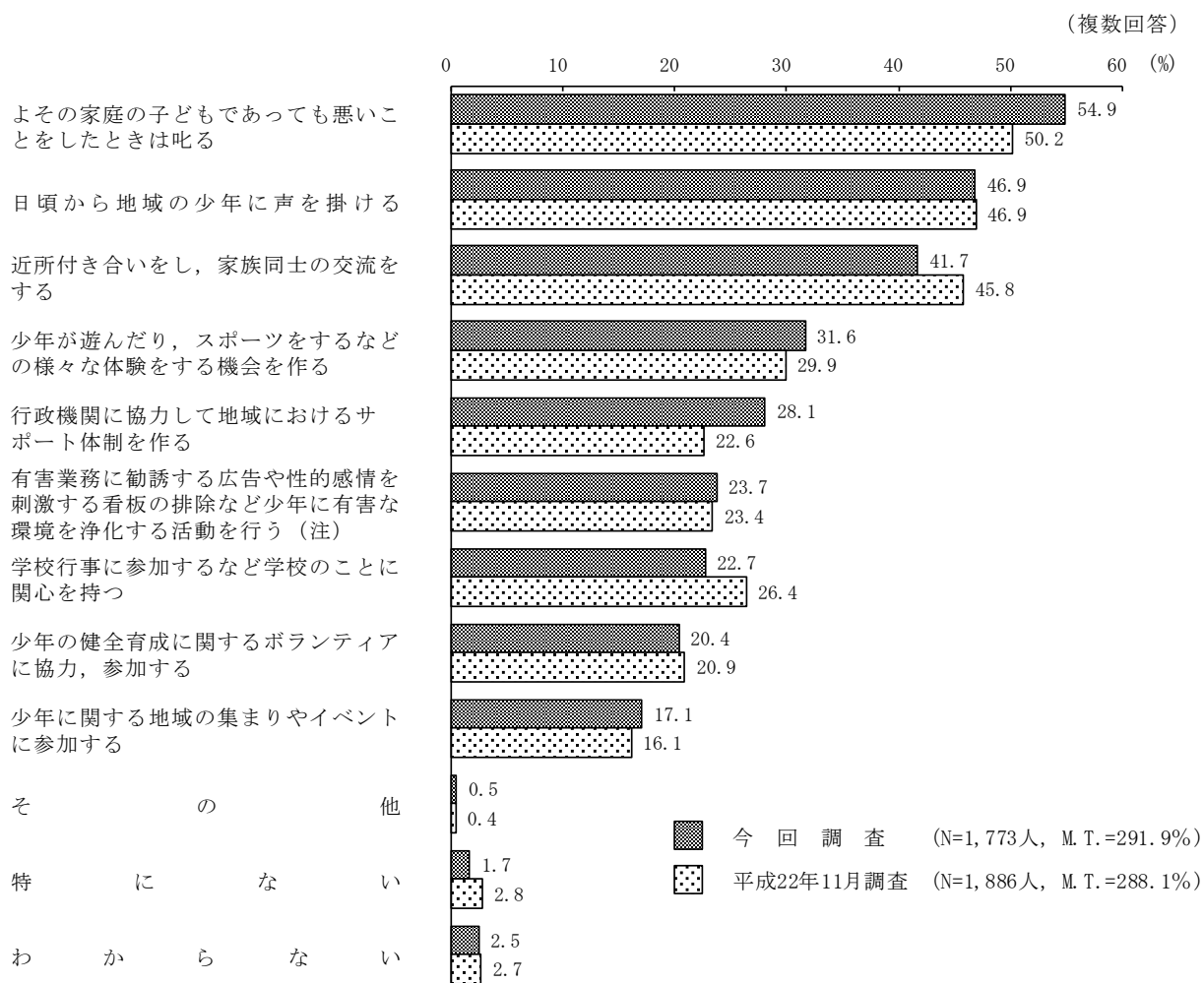
(5) 地域住民の対応

問14 少年を非行に走らせないようにするために、地域社会の住民はどのように対応するのがよいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位5項目)

平成22年11月 平成27年7月

・よその家庭の子どもであっても悪いことをしたときは叱る	50.2%	→	54.9% (増)
・日頃から地域の少年に声を掛ける	46.9%	→	46.9%
・近所付き合いをし、家族同士の交流をする	45.8%	→	41.7% (減)
・少年が遊んだり、スポーツをするなどの様々な体験をする機会を作る	29.9%	→	31.6%
・行政機関に協力して地域におけるサポート体制を作る	22.6%	→	28.1% (増)



(注) 平成22年11月調査では、「ピンクピラの撤去や有害図書の自動販売機の撤去運動などの地域における有害な環境を浄化する活動を行う」となっている。

(6) 非行少年の立ち直りに必要なこと

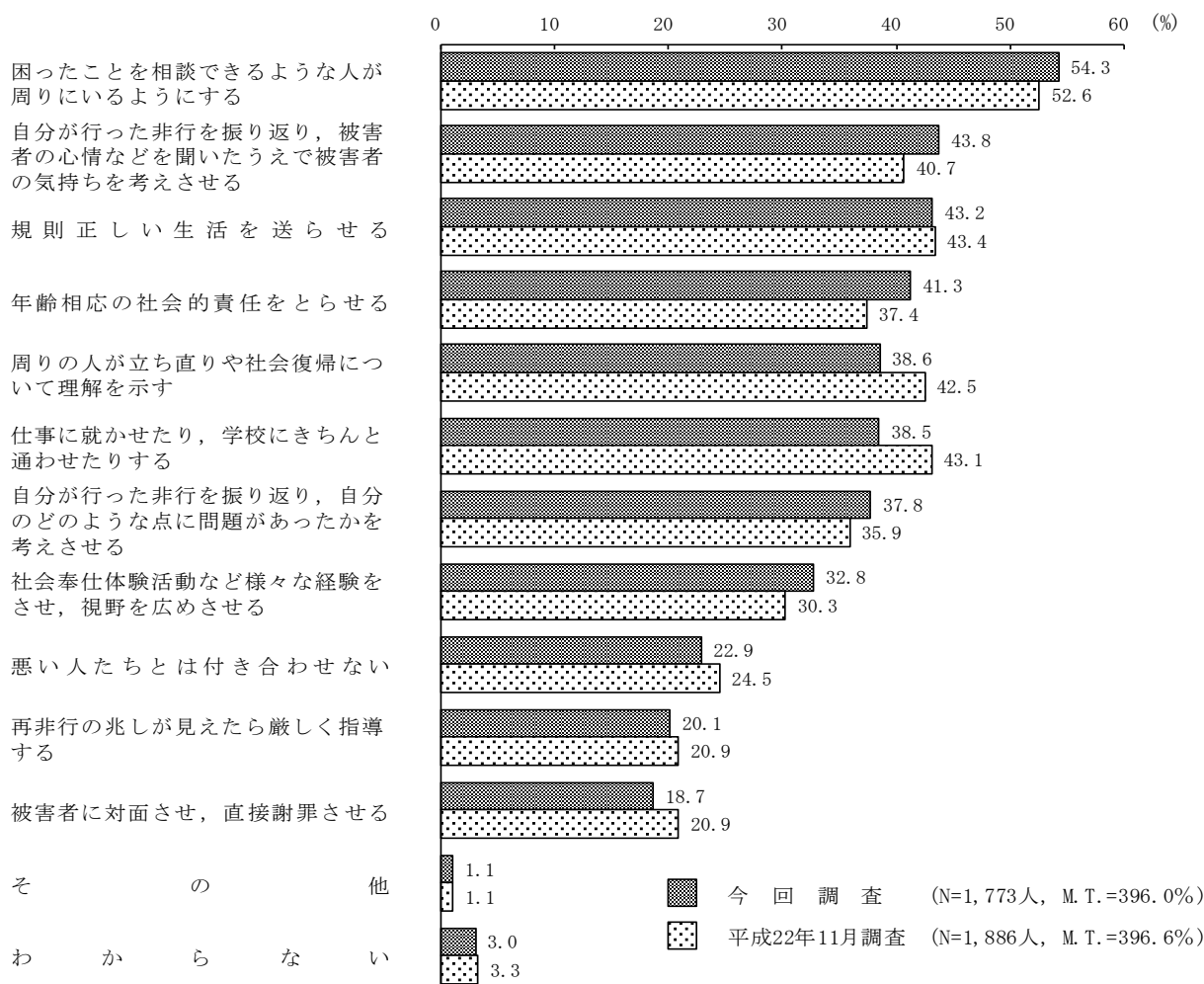
問15 非行を犯して検挙された少年のうち、多くはその非行の程度などから少年院送致などとならずに、地域社会の中で立ち直りを模索しています。あなたは、これらの少年を立ち直らせるために、少年に対して、ということが特に必要だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位7項目)

平成22年11月 平成27年7月

・ 困ったことを相談できるような人が周りにいるようにする	52.6%	→	54.3%
・ 自分が行った非行を振り返り、被害者の心情などを聞いたうえで被害者の気持ちを考えさせる	40.7%	→	43.8%
・ 規則正しい生活を送らせる	43.4%	→	43.2%
・ 年齢相応の社会的責任をとらせる	37.4%	→	41.3% (増)
・ 周りの人が立ち直りや社会復帰について理解を示す	42.5%	→	38.6% (減)
・ 仕事に就かせたり、学校にきちんと通わせたりする	43.1%	→	38.5% (減)
・ 自分が行った非行を振り返り、自分のどのような点に問題があったかを考えさせる	35.9%	→	37.8%

(複数回答)



5 警察などの行政機関に対する要望等

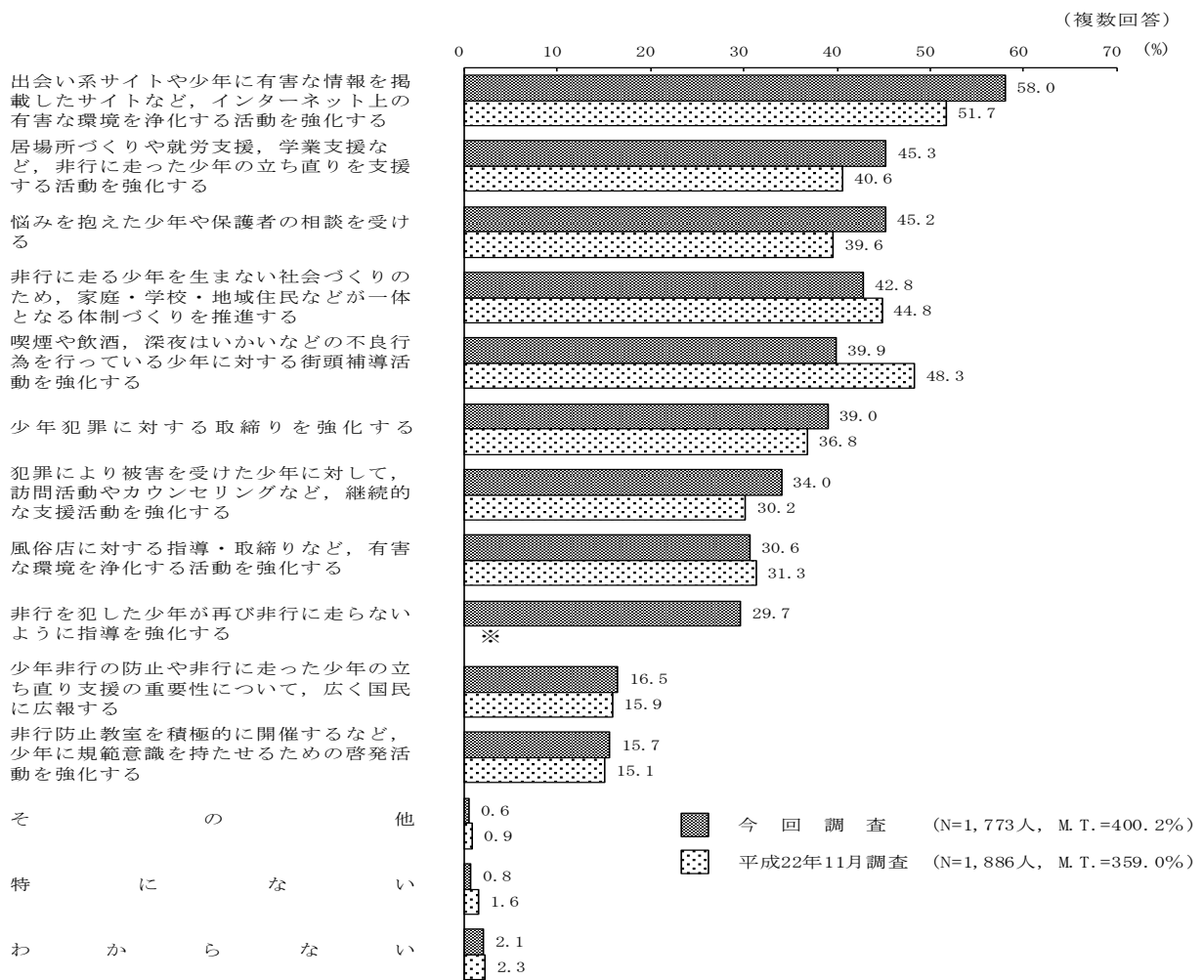
(1) 警察などの行政機関に対する要望

問 16 少年非行の防止のため、今後、警察などの行政機関に力を入れてほしい対策を、この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位 6 項目)

平成 22 年 11 月 平成 27 年 7 月

・ 出会い系サイトや少年に有害な情報を掲載したサイトなど、インターネット上の有害な環境を浄化する活動を強化する	51.7%	→	58.0% (増)
・ 居場所づくりや就労支援、学業支援など、非行に走った少年の立ち直りを支援する活動を強化する	40.6%	→	45.3% (増)
・ 悩みを抱えた少年や保護者の相談を受ける	39.6%	→	45.2% (増)
・ 非行に走る少年を生まない社会づくりのため、家庭・学校・地域住民などが一体となる体制づくりを推進する	44.8%	→	42.8%
・ 喫煙や飲酒、深夜はいかいなどの不良行為を行っている少年に対する街頭補導活動を強化する	48.3%	→	39.9% (減)
・ 少年犯罪に対する取締りを強化する	36.8%	→	39.0%



※調査をしていない項目

(2) 支援活動への参加

問17 警察などの行政機関が行う少年の非行防止のための活動について、あなたは具体的にどういった活動なら参加したいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位4項目)

	平成22年11月	→	平成27年7月
・少年とのスポーツ活動	30.8%		31.9%
・少年との街頭における清掃活動や落書き消し活動	34.3%		31.7%
・少年の学習支援活動	13.9%		16.4% (増)
・夜間の繁華街などにおける少年への声掛け活動	18.3%		15.7% (減)
・参加したくない	12.2%		13.5%

